

同志社大学

2011年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2012年 2月 17日提出

所属	職名	氏名
経済学部	教授	川越 修
研究題目	戦後西ドイツにおける「社会国家性」の歴史的展開 —家族をめぐる「包摂」と排除— (科学研究費補助金/基盤研究 B)	
研究成果 の概要	<p>上記科研補助金の最終年度にあたる今年度は、その成果に基づき、以下のシンポジウムを組織するとともに、研究報告等を行った。</p> <ol style="list-style-type: none">① 日本西洋史学会第 61 回大会(2011年 5月 15日 日本大学) 小シンポジウム (「家族と社会国家—20 世紀ドイツにおける包摂のダイナミズム」): 問題提起② ミュンヘンにおけるワークショップ(2011年 9月 8日 Max-Planck-Institut für Sozialrecht und Sozialpolitik München): 口頭報告 'Gab es in der ehemaligen DDR intermediäre Organisation? Zu den Aktivitäten der Volkssolidarität'③ ドイツ現代史学会第 34 回大会(2011年 9月 17日 東京大学) 小シンポジウム(「東西ドイツの社会国家性—中間団体の視点から」): 口頭報告「旧東ドイツに中間団体は存在したか? —「人民連帯」(Volkssolidarität) の活動をめぐって」 <p>また本研究に関わる 2 点の日本語文献の書評を執筆した。</p> <ol style="list-style-type: none">① 高岡裕之著『総力戦体制と「福祉国家」』(岩波書店、2011年):『歴史評論』2012年 3月号。② 齋籐香理著『ドイツにおける介護システムの研究』(五玄社、2011年):『ドイツ研究』第 46号、2012年。(上田有里奈との共同執筆)	